

## 平成 22 年 ボイル帆立 生産予測資料

## 1 平成 22 年度 ボイル帆立生産量予測

	平成 21 年	平成 22 年	差
噴火湾原貝水揚数量(t)	92,522 ⇒	73,223	▲19,299
うち渡島地区水揚	69,875 ⇒	55,000	▲14,875
うち胆振地区水揚	22,647 ⇒	18,223	▲4,424
ボイル向け原貝処理配分	71,242(77%) ⇒	43,934(60%)	▲27,308
噴火湾ボイル生産量(平均歩留)	19,948(28%) ⇒	10,983(25%)	▲8,964
ボイル生産量合計	19,948 ⇒	<b>10,983</b>	▲8,964

※ ↑ 昨年より確実に減ります。

## 2 ボイル内販供給量予想・比較(シミュレーション)

(単位=t)	越年在庫	生産量	総供給量	消費量	昨年対比
平成 17 年	625	10,000	10,625	7,865	▲4,858
平成 18 年	2,760	16,000	18,760	15,620	7,755
平成 19 年	3,140	14,000	17,140	16,000	380
平成 20 年	1,140	18,500	19,640	17,703	1,703
平成 21 年	1,937	19,948	21,885	19,937	2,234
平成 22 年予想	1,948	10,983	12,931	<b>10,931</b>	▲9,006

※ ↑ 平成 23 年 3 月在庫 2,000t で仮設定。

## 3 ボイル帆立コメント

【キーワード】 ①水揚数量減少、②生産数量減少、③輸出数量拡大

【詳細】

- ・ 噴火湾原貝水揚げ見通しは昨年比大幅減産(09年 92,522トン ⇒ 10年 73,223トン)
- ・ 帆立貝への付着物(ザラボヤと言われています)が多く、水揚げ効率が悪い。
- ・ 時化が多く水揚げが順調に行われていない。(昨年よりペースは遅い)。
- ・ 貝の成長が遅れていて、製品にした際の歩留りが昨年と比較し悪い。
- ・ 中国中心に直接噴火湾産地へ買い付けが入り、輸出へまわっている状況。  
(両貝冷凍、最近ではボイル帆立も輸出されている模様)

上記状況より水揚げ減、生産減、輸出数量の拡大から、内販供給量が少なくなる見通しです。

## 4 噴火湾水揚高の推移(原貝ベース)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年 当初見込	平成 22 年 修正見込
礼文	2,482	2,929	2,559	3,605	3,000	<b>3,000</b>
豊浦	5,388	6,090	5,215	8,034	5,800	<b>5,800</b>
虻田	5,447	6,382	5,479	6,582	6,200	<b>6,200</b>
有珠	814	871	733	1,086	1,050	<b>1,050</b>
伊達	1,747	2,228	2,294	3,340	2,300	<b>2,300</b>
胆振計	15,878	18,500	16,280	22,647	18,350	<b>18,350</b>
長万部	9,032	9,396	13,594	12,823	13,800	<b>11,000</b>
八雲町	5,251	5,250	4,614	5,158	5,000	<b>4,000</b>
落部	13,018	12,197	12,478	14,837	10,000	<b>8,000</b>
森	16,474	14,371	16,136	17,059	17,000	<b>15,000</b>
砂原	8,521	8,968	8,751	8,994	9,000	<b>8,000</b>
鹿部	11,793	11,336	10,081	11,004	11,000	<b>9,000</b>
渡島計	64,089	61,518	65,654	69,875	65,800	<b>55,000</b>
噴火湾計	79,967	80,018	81,934	92,522	84,150	<b>73,350</b>

※ 平成 21 年までは実績、平成 22 年は当初見込・修正見込を記載。

※ 平成 22 年修正見込では渡島地区の大幅な減産が目立ちます。

(注) この見通レポートは状況の変化と共にかなりの変化が有り得ます。故に断定的なものとしめよう御理解ください。